

2017年に超高層都心型キャンパスが完成 グローバル人材の育成を目指す愛知大学

二〇一二年春、「ささしまライブ24」地区に名古屋キャンパスを開校した愛知大学。現在、第二期工事で二〇階建ての本館（研究棟）とグローバルコンベンションホールの建設を進めており、一七年春には超高層都心型キャンパスが完成する。同地区をはじめとする周辺企業と連携し、グローバル人材の育成を目指す同校の川井伸一学長（理事長）に聞いた。（聞き手・編集部）

——二〇一六年には、「ささしまライブ24」地区に名古屋キャンパスが開校して五年目の春を迎えます。

川井 一九四六年に設立された
本学の設立趣意書には「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」がうたわれています。一方、ささしまライブ24地区は「国際歓迎・交流拠点の形成」に

——志願状況や、就職活動への影響は？

川井 名古屋キャンパスの計画以来、一般入試の志願者は増加傾向にあり二〇一四年志願者は、一九九一年の過去最高値に近づきました。今年は若干下がりましたが、過去三番目の記録。立地条件の良さから尾張地区や三重・岐阜県からの志願者が増加しています。就職決定率も年々向上。公務員合格者は今年三四〇人で、昨年より約五〇人増加しました。本学としても就職支援を強化してきましたが、学生は立地の利便性を活かして就職活動をしています。また、

本学の東京霞が関オフィスは東京・全国区の企業への就職を目指す学生たちの活動の拠点にもなっています。

——学生生活や教育・研究活動は？

川井 学生にとっては通学が便利になりました。五学部で約七〇〇〇人の学生がいますので、周辺地域のにぎわいや交流の場の促進につながっているのではと思います。新たな教育施設も評価が高く、現在のまじめな学生気質も背景にあると思います。出席率は向上し、三好校舎（みよし市）に比べてキャンパスでの学生の滞在時間は長くなっています。

「模擬裁判」、「パブフェス」などの学生教育イベントへの参加者も増えて、研究会や講演会などの